

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293300016		
法人名	株式会社チェリーコート		
事業所名	チェリーコートグループホーム		
所在地	千葉県四街道市大日549 - 1		
自己評価作成日	平成23年1月21日	評価結果市町村受理日	平成23年4月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2 - 10 - 15
訪問調査日	平成23年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にとっていつまでも「居心地の良い我が家」であり続けるという大切な目標・理念については、現在もそしてこれからも変わることはありません。そして入居者様一人ひとりの「あるがまま」または「個性」をスタッフ全員が一丸となって受け入れることのできる「チームケア」を常に心がけております。これからも、ご家族様や地域のみなさまとのつながりを大切にしながら共に歩んで参りたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「居心地の良い我が家」であり続けるとの基本理念とサービス提供に係る7つの理念を事業計画に明記し、ミーティング等で常に話し合い共有している。毎月のカンファレンスで一人ひとりの課題分析等を行い、チーム全体でケアの方向性を決め、本人・家族の意向を尊重し、現状に即した介護計画を作成している。入居者一人ひとりのあるがままを受け入れ、入居者と同じ目線で、寄り添うケアをチームワーク良く実践している。家族や地域との連携も良く取れている。管理者が大切にしている職員同士の人間関係、チームケアの実践により、入居者にとって「居心地の良い我が家」に着実に近づきつつある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が共通の意識・理念を持ち「家庭的な雰囲気」の中で入居者様と同じ目線で寄り添うケアを実践している。	「居心地の良い我が家」であり続けるとの基本理念を実現するため、サービス提供に係る7つの理念をミーティングなどで何時も話し合い共有している。職員同士の間人間関係を大切に、入居者と同じ目線で入居者に寄り添うケアをチームワーク良く実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつではありますが地域との関係を築きながら夏祭りや餅つき大会などに参加させて頂いております。	管理者が自治会に出席している。地域の夏祭りや餅つき大会に参加している。もっと元気になり体操やお茶会を月一回行い、老人会の方が参加。施設主催の運動会に地域の方に来ていただいたり、社協祭りに作品を出展したりと地域との交流を活発に行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての講演や転倒予防体操などを引き続き地域に向けて発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況や取り組みについての報告を常に行い、行政・地域・ご家族様からは活発に意見を頂きながらサービスの向上に努めている。	年間開催予定表を事前に配布し、市職員、地域包括の方、地域の方や家族等多くの方々の参加を得て、定期的に開催している。地域の方との協働・転倒事故報告・避難訓練・ターミナルケアなど具体的にテーマを明確にし、活発な意見交換がなされ、当事者の気付かないご意見等も頂き、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やその他状況に応じて常に定期的な報告や相談を行っている。	高齢支援課の担当者や地域包括支援センターに取り組み状況等を定期的に報告している。具体的な事例で相談したり、実情を見に来ていただいたりと良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通して職員全体で身体拘束についての理解を深めた上でのケアを行っている。	身体拘束(抑制)の具体的な行為・見える拘束・見えない拘束・身体拘束の問題点(弊害)・身体拘束例外3原則等等、研修や日ごとの話し合いを通して職員の理解を深め、日々のケアを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い虐待についての認識をしっかりと持って日々のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を行い権利擁護に関する制度等についての理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り分かりやすく説明することを常に心がけ、ご家族様等に不安を与えないよう注意をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等を通して行政などの外部に対しても意見や要望などが伝わるように配慮し、それを今後の運営に反映できるよう心がけている。	自分の時間を大切にしたいとか誕生日にはビールが飲みたい等、入居者の要望を良く聴き、叶えている。担当者の手書きのチェリーコート便りに写真入りで近況報告や課題等を載せ、毎月お送りし大変喜ばれている。面会時や運営推進会議時には家族から自由に意見を言って頂き易い雰囲気作りをし、お聞きしたことを常勤会議等で、共有し反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング等で職員全体の意見や提案を十分に把握した上で管理運営を行っている。	職員同士の人間関係を大切にしたいとの管理者の考えが全職員に良く浸透している。毎月の業務ミーティングでは活発な意見交換が行われ、職員の早番・日勤・遅番の業務の標準化の提案等、決めごとは皆で決める仕組みが機能し、運営に良く反映されている。管理者は一人ひとりの考え方ストレスの受け方の違いを良く理解し、表情や顔色を見て随時一人ひとりの愚痴や話を良く聴くようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との連携のもと、職員全員の状況を把握し各自が安心して働く事ができるような職場環境と条件を目指して努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外研修の機会を積極的に設け個々のスキルアップを図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ交流の機会を作るまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際にご家族様やご本人様の要望等をできるだけ細かく伺い、安心して生活をして頂けるようニーズに沿った支援を行いお互いの関係を構築して行けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際にご家族様とは十分に話し合いを行いその中から支援の方向性を決定している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療的なコース等がある際には主治医と相談の上でその後の対応等を検討するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム全体が一つの家庭または家族であるとの認識の上で、職員全員が常に「同じ目線」でのケアをするよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がいつでも気軽に面会に来て頂けるように日頃から信頼関係の構築を大切に、私たちスタッフとご家族様が共にご本人を支えて行けるように日々努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される以前に親交があった友人の方などに面会に来て頂き、懐かしいお話しなどをしながらできるだけ昔からの関係が途切れないよう努めている。	訪ねてきた友人とお寿司を取ってゆっくりお話をさせていただいたり、行きつけの洋品店に洋服を一緒に買いに行ったり、友人や親せきとの年賀状や手紙のやり取りをお手伝いしている。併設のデーサービスにおやつパイキングや民謡・手品などのボランティア行事と一緒に参加し、昔の馴染みの人や場との関係を継続する支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で一人ひとりがそれぞれの役割を持ち、みなさんが支えあえる環境または雰囲気を作り続けることができるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される際に特養入所などのニーズがあれば、随時相談に応じ対応させて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での会話もしくは表情・仕草などから個々の思いや意向が把握できるよう、日頃から様子観察等に細心の注意を払うよう努めている。	一人一人とゆっくり向かい合うことができるよう努力をしている。物足りなさ気な表情の利用者とは回想法を用いてお話することで、笑顔を取り戻してもらう。精神状態に波がある方に対し、表情・仕草から本人の状態を把握し支援している。今日一日何をしようかということを決めており、会話が困難な方でも筆談で希望をきいている。お話が好きな方には、本人が満足するまでお話を聴くよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境などを十分理解した上での支援を行いながら、日々の生活での経過・変化等を全スタッフがしっかりと把握できるよう定期的なカンファレンスを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のモニタリングを通しての記録等を基に全スタッフが情報を共有し、一日の生活状況の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスでそれぞれの課題分析等を行った上でチーム全体の意見をケアプランに反映し、運営推進会議でのご家族からの意見や意向なども尊重しプランに反映するよう努めている。	毎月のカンファレンスでは、課題のある方を含め入居者4～5名について話し合いケアの方向性を決めている。ケアカンファレンスや運営推進会議後の家族との面談を活用し、本人・家族の意向を尊重し現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い目標達成レベルの確認も行っている。退院前に医師から日常生活について指示をもらい、現在では立位をとれるまでになった方もいる。立ち上がり時に転倒が多い方に対し、カンファレンスで福祉用具のレンタル導入を決めたケースもある。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録は出来る限り正確に記録し、申し送り等にて職員間で情報共有し、カンファレンスの際にもプランの見直しに記録を活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で変化して行くさまざまなニーズに対して出来る限り柔軟な対応・支援ができるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ダンスの集いや夏祭りなどに参加しできるだけ本人の心身の力が発揮でき、なおかつ楽しめるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ医師やご家族との連携を図りながら相互の信頼関係を築いて行き、安心した医療が受けられるよう努めている。	2週間に一度の往診の医師が利用者全員の主治医となっている。随時、皮膚科や整形外科へ職員が受診同行する。歯科は必要時に往診を依頼している。往診前には、「診療予定者リスト」を作成し医師に見せ、医師からの指示は「医師からの指示書」に記入する。外部受診は「病院受診記録」に記入し、家族に連絡している。入院となった利用者がいた場合にも、なるべくお見舞いにいき情報収集にも努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での体調変化や気づきについては速やかに看護師へ相談し指示を仰ぐよう心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には医師との情報交換等の連携を図り、ご本人が安心して治療に専念し出来る限り早期に退院ができるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行っていくという方針はほぼ固まっている。しかし、ご家族様との早期の話し合いや職員研修などを重ねて方針を共有していくまでには至っていない。	医療連携加算もとっており、看護師には24時間連絡できるようになっている。昨年6月には運営推進会議に主治医に出席してもらい、ターミナルについてご家族にもお話をした。家族の「してほしいこと、してほしくないこと」などを具体的に同意書などで希望を汲み取っていくなど家族との話し合いや「どう寄り添い看取るか」という職員の心構え等、体制を整える準備をしているとのことである。	医療との連携を想定し、具体的な研修を積み重ね、ターミナルへの方針の共有と準備を更に進めておかれることを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等でそれぞれの状況に応じて救急搬送の必要性の有無なども含めて対応できるよう話し合いを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、より迅速な対応が常に行えるよう心がけている。また、夜間帯などは地域との協力体制も大きな助けになっている。	消防立ち会いの避難訓練のほか、地域の方のアイデアを取り入れ、毎月訓練を行っている。地域の協力して頂く人にも判るよう、廊下には非常口までのテープによる矢印をはっている。災害時用の地域の方への連絡網と職員用の連絡網も用意されている。設備の点検も行っている。災害対策は高いレベルで行われている。	地域との協力体制や毎月避難訓練を行っていることは高く評価できる。更に欲を言えば、何時起こるか判らない災害に備え、夜間の連絡・召集訓練を実施しておかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご本人のそばに寄り添いながら一人ひとりの尊厳を常に大切にしながら対応している。	入居者一人ひとりの意思を尊重し、側に寄り添いゆっくりお話を聞き、受け入れることで無理強いすることなく見守る。基本的には、苗字にさん付で声掛けしているが、この家長の気持ちでいる入居者にはその気持ちを大事にし、「お父さん」という声かけをしている。自分の時間を大切にされる方は居室でゆっくり過ごして頂く。新聞購読者も3名おり、一人はお部屋で声を出して新聞を読むことを日課としている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご自分の意思や希望を表現できるような環境作りや声かけを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は個々の入居者様の生活リズムを十分に把握した上で一日の業務を行い、希望があれば買い物や散歩などに行くこともある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のご希望に応じて化粧品や洋服などを一緒に買いに行くなどして、出来る限りその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況に応じて食事の準備や片付けなどをしてもらったり、自宅で使っていたお箸や茶碗などを使って頂きながら、みなさんでテーブルを囲み食事を楽しんで頂けるように努めている。	絹さやなどの筋とり、テーブル拭き、おしぼりの用意などを3名～4名の方が行い、下膳は出来る方が行う。ご飯を残しやすい方には、岩のりを提供し対応している。誕生会やクリスマスではケーキを作り、敬老会では家族や地域の方も参加して祝い膳を楽しんだ。お寿司屋さんや、ファミリーレストランでの外食もある。3ヶ月に一度、自ら選択して食べるデイサービスでのデザートバイキングに参加している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取については個々の健康状態等を常に把握した上で対応している。また、摂取した量や状況などはその都度記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々の状況に応じて欠かさず行い、できるだけ残存機能を生かせるよう出来るところはなるべくご自分で行うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や声かけを定期的に行って、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	日中のおむつ使用はゼロでリハパンとパット併用し、夜間のおむつ使用も立ち上がりが困難な方お一人となっている。「トイレで自然に」との思いから、便意や尿意のない方に対しても、トイレ誘導のタイミングと声かけを工夫し、利用者それぞれのトイレのサインを見逃さず、誘導を増やすことで、トイレでの排泄を継続している。高いレベルの排泄の自立支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事を摂って頂くことや、体操・レクなどを行いできるだけ身体を動かすことなどを日々心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立されている方についてはご本人の希望や体調に合わせて入浴していただいている。また拒否などの強い方については、できるだけ穏やかな状態の日などにタイミングを計りながらの声かけを行っている。	職員二人対応の方もいる。菖蒲湯、ゆず湯も楽しむ。脱衣所は早めに暖めておくよう配慮している。入浴拒否が強い方には、「お茶をのみにいこう」とお誘いした後で、「ちょっとお風呂も入りましょうか」と声かけし納得していただく。浴室には、シャワーチェア、バスボード、浴槽台などがある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況や習慣に応じて昼寝の時間を作ったり、就寝前に楽しいお話しなどをして不安な気分を和らげて頂き、少しでも安心して眠ることができるような支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際に主治医より適切な指示を頂き、その内容については、毎回ファイリングし全員が情報を共有できるようにしている。また、薬の変更等による状態の変化については、その都度主治医との連携を図りながら支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	あくまでも本人が苦痛に感じない程度の役割を持って頂き、メリハリのある生活をしてもらえるよう支援している。例えば、縫い物の得意な方に産着を縫って頂いたり、片付けの得意な方にはお鍋やお皿の片付けを手伝って頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方の協力を頂きながら、夏祭りや餅つき大会などに参加している。また、できるだけご本人の希望に応じ、外食や外出に出かけたり出来るように努めている。	10分～15分の散歩コースがある。お天気の良い、温かい日には、外のベンチに出て外気にふれる機会もある。入居者の希望に応じ、月に一度は外出や外食のイベントを行っている。近くのスーパーに入居者と一緒に日用品を買いに行ったり、洋品店へ買い物に行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところお金の所持や管理はしていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前からの友人などからお手紙などをいただくことはありますが、お返事を書くことは少し難しいようです。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中天候によってはリビングの窓から直射日光がかなり強く当たるが多いためカーテンなどを利用して光の調節を細やかにし入居者様に不快な思いをさせないよう努めている。また、今年の干支にちなんだ作品等を廊下に展示したりして季節を感じて頂けるよう工夫している。	窓が広くとられているリビングで、窓に面してソファやイスが設置されており、ゆったりと外を眺めて過ごすことができる。廊下には手すりがあり、洗濯機は利用者も使用可能で、ベランダに洗濯を干しに出る利用者もいる。音に敏感な方は、テレビの大きな音に混乱してしまうので、適度な音量になるよう心がけている。また、まぶしいと怒る方もいるので、レースと緑色のカーテンを使い、光の調節も行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの丸テーブルにて過ごしていただく際の座席の配置などは、全体の相性なども十分に踏まえた上で考えるよう努めている。そしてその中で個々にテレビをご覧になったり、新聞を読んだりされていることもよく見受けられる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様から過去の生活の様子などを伺いながら馴染みのある物などがあればできるだけ本人の居室に置いてもらうよう呼びかけている。	各部屋にはネームプレートがあり、防火カーテン、エアコン、洗面スペース、クローゼットが完備されている。部屋の半分に畳を敷き、布団で寝ている方もいる。タンス、テーブル、イス、ベッド、テレビ、ラジカセ、ビデオ、お花、作品、写真などを持ちこみ、それぞれの利用者らしい部屋となっている。転倒のリスクが高い方は、室内の配置を変え、動線を確保して対応している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全な自立歩行は少し難しいが何かに伝いながらの歩行であったら自立にてトイレ行くことも可能であれば残存機能をできるだけ活かせる環境作りをご家族と共に相談しながら行っている。		